

兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会 [第1回総会] 議 事 要 旨

I 日 時：平成27年5月21日（水）10：00～11：30

II 場 所：兵庫県民会館 11階 パルテホール

III 出席者

別紙1のとおり

IV 議 事

- 1 兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会の開催について（兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会規約）
- 2 次世代産業の創出による雇用創造プロジェクト事業構想について（平成27～29年度）
- 3 平成27年度 プロジェクト事業概要・事業実施スケジュール

V 主な内容

- 1 開会
- 2 兵庫県産業労働部長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 事務局資料説明
事務局から議事1、2、3について資料をもとに説明
 - (2) 意見交換
別紙2のとおり
- 4 閉会

出席者 34 名（構成員 24 名、オブザーバー、県・推進協議会事務局 9 名）

構成員（出席24名）

	草薙 信久	兵庫県経営者協会専務理事
代理	荒木 俊光	公益社団法人兵庫工業会常務理事
	村田 泰男	兵庫県商工会議所連合会専務理事
	足立 誠	兵庫県商工会連合会専務理事
	小林 英明	兵庫県中小企業団体中央会専務理事
	福永 明	日本労働組合総連合会兵庫県連合会事務局長
	橋本 芳純	公益財団法人新産業創造研究機構専務理事
	足達 和則	兵庫県立工業技術センター次長（総括担当）
	三重野 雅文	公益財団法人先端医療振興財団経営企画部長
代理	殖栗 成夫	一般財団法人近畿高エネルギー加工技術研究所研究開発部長
	安井 宏	公益財団法人計算科学振興財団専務理事
代理	日高 史朗	公益財団法人ひょうご産業活性化センター 創業推進部次長
	廣瀬 勝久	一般社団法人神戸市機械金属工業会事務局長
	松田 暉	公益財団法人神戸国際医療交流財団理事長
	小林 滋	特定非営利活動法人国際レスキューシステム研究機構理事
	窪田 雅夫	一般財団法人兵庫県雇用開発協会理事兼事務局長事務取扱
	太田 勲	兵庫県立大学理事兼副学長兼産学連携・研究推進機構長
代理	小高 裕之	神戸大学連携創造本部副本部長
	杉本 直己	甲南大学先端生命工学研究所長・教授
	吉見 隆	株式会社三井住友銀行公共・金融法人部（神戸）部長
	宮野 修	兵庫労働局職業安定部長
代理	小西 啓輔	神戸市企画調整局医療産業都市・企業誘致推進本部調査課長
	石井 孝一	兵庫県産業労働部長
	村上 元伸	兵庫県産業労働部政策労働局長

オブザーバー

齋藤 佳久 近畿経済産業局産業人材政策課長

県・推進協議会事務局（9名）

境 照司	産業労働部政策労働局産業政策課長
今井 良広	” 産業政策課企画調整参事
山下 裕司	” 産業政策課政策班長
大谷 俊洋	” しごと支援課長
安部 則行	” 産業振興局工業振興課長
竹岡 嘉彦	” 新産業課長
狭間 昭宏	” 産業立地室立地班長
坂東 政市	企画県民部科学情報局科学振興課長
安達 正志	推進協議会事務局主任プロジェクト推進員

議事要旨（意見交換）

○事務局

ただいまから次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会第1回総会を開催します。最初に本県では、開かれた行政運営を行っていくため、特段の支障がない場合は会議を公開としています。本日の総会につきましても、本県の取り扱いに準じ、公開とさせていただきますのでご了承願います。それでは、開会にあたり、兵庫県産業労働部長からご挨拶を申し上げます。

産業労働部長あいさつ

構成員の紹介

○事務局

それでは、議事に入ります。議事1は兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会の開催について、兵庫県次世代産業雇用創造プロジェクト推進協議会規約についてです。資料1と参考資料1に基づき、県産業政策課長から説明します。

産業政策課長の説明

○事務局

ただいまの説明について、ご質問・ご意見等はございませんでしょうか。ご質問等がなければ、協議会規約の制定についてご承認をいただいたこととさせていただきます。

続きまして議事2の次世代産業の創出による雇用創造プロジェクト事業構想です。資料2に基づき、県産業政策課参事から説明します。

産業政策課参事の説明

○事務局

ただいまの説明について、ご質問はございませんでしょうか。ご意見等につきましては、議事3の後の意見交換の時間でいただきたいと思えます。特にご質問がないようですので、議事3の平成27年度プロジェクト事業概要・事業実施スケジュールに移ります。

平成27年度プロジェクト事業概要・事業実施スケジュールについては、資料3・4に基づき、各事業所管課室及び神戸市から説明をします。事業実施主体の皆様から補足等があれば、全事業説明後にいただきたいと思えます。また、事業の取組に対する現状認識や課題等についても、全事業説明後に意見交換をお願いしたいと思えますので、よろしく願います。初めに、県新産業課長から説明をします。

新産業課長の説明

○事務局

続きまして、県工業振興課長から説明をします。

工業振興課長の説明

○事務局

続きまして、県産業立地室立地班長から説明をします。

産業立地室立地班長の説明

○事務局

続きまして、県科学振興課長から説明をします。

科学振興課長の説明

○事務局

続きまして、県しごと支援課長から説明をします。

しごと支援課長の説明

○事務局

続きまして、県産業政策課長から説明をします。

産業政策課長の説明

○事務局

続きまして、神戸市医療産業都市・企業誘致推進本部調査課長から説明をします。

神戸市調査課長の説明

○事務局

以上で、全事業の平成27年度事業概要及び事業実施スケジュールについて、説明が終わりました。

残りの時間で皆様からの補足説明や事業構想の推進、各事業の取組に対する現状認識、課題等について、ご意見・ご質問等をお願いします。

○A委員

資料3の事業について、私どもも、ある程度進めているもの、スタートしたばかりのものといろいろな状況のものがあります。次世代の産業の育成は、従来から私ども担当してきた内容で、これからも力を入れてやっていきたいと考えています。

今回のプロジェクトの最終的な目標は雇用創造ということです。事業の芽を育てていき最終的なその事業の出口、将来方向について、参画される企業が確信を持てる形にならないと、雇用になかなか繋がっていきにくいのではないかと感じています。そういった意味で、3年間のプロジェクトですが、かなり綿密に出口、最終目標の確認をやらないと、曖昧なままで進んでは困ります。自戒の意味も込めてそういう感覚を持っています。

また、いろいろなプロジェクトがありますので、特にアカデミアの皆様には、いろいろな知見等、ご指導・ご支援をいただきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

○会長

このプロジェクトは3年間で雇用を進めるとともに次世代産業を育成していくというものです。3年後、計画どおり進んでいないのではないかとということもありえると思っています。しかし、兵庫県では、ひょうご経済・雇用活性化プランにおいて、兵庫経済の目指す姿として、活力あるしなやかな産業構造の構築を掲げており、その産業構造の構築の1つとして、先端分野での産業の創出・育成に取り組むこととしていることから、これらの取組は継続的なものになると思っています。ただし、このプロジェクトとしては、3年間で一定の目標を達成していくということになりますので、雇用状況のチェック等、連絡会議等も開きながら、進行管理もきっちりしていかなければならないというところです。

○B委員

今回のプロジェクトは非常に幅広いですが、中身を見ていると、ビジネスマッチングなど、私どもだけではなく、各団体が日頃から行っている事業とかなり重複、錯綜しているところがあります。既にある程度仕組みが出来上がっているものもあると思いますので、既存の活動とうまく組み合わせやらないと、この協議会だけでは、これだけ手広いことをやるには限界があります。既存のものとうまく連携して、その力をうまく使っていくような形をとらないと、なかなか雇用や成果に結び付かないのではと危惧します。お手伝いするところはあるかと思いますが、そのところは必要があれば声をかけていただきたいと思います。

○会長

ご指摘のとおりだと思います。本県では、活性化プランに基づく取組を加速させるため、このプロジェクトを活用していますが、例えば核になるような大企業を誘致し、いろいろな助成制度を組むなどの制度は、このプロジェクトの予算とは別枠で用意をしています。他の既存事業との連携を図らなければこのプロジェクトはうまく機能しないと認識しています。ぜひ今後ともご協力をよろしくお願いします。

○C委員

このプロジェクトは次世代産業の創出をベースにした雇用の創造ということですが、雇用だけでは3年間で終わりということにもなりかねません。そういう意味では、いくつかの別のプロジェクト、例えば神戸市の医療機器の実用化の促進プラットフォームなど、既存の活動と一緒にあって、まず産業をベースに、企業誘致も含めしっかりやっていかないと難しいと思います。先ほどの既存の活動との連携と同じ意見です。経済産業省との連携もうまくしていただければと思います。

また、コーディネータの配置というのがさかんに出てくるのですが、コーディネータの意味が分かりにくい。私が思うには、コーディネータという言葉は別として、きっちりとした専門職化をする。一時的にこのプロジェクトだけでコーディネートするのではなく、医療関係やエネルギー関係、そういう分野できっちりとしたいいわゆるコーディネートできる専門職の資格、そう

いうものを作っていけば長続きするのではないかと思います。このプロジェクトで使われているコーディネータについて、少しご説明いただければと思います。

○会長

神戸市や経済産業省との連携・調整は、我々絶対していかなければならないという思いがあります。今回、先端医療に関しまして、神戸市と先端医療振興財団に事業実施主体として参画していただいたというのは、まさにそういうところです。また、国家戦略特区での規制緩和等、そういうものも並行して使っていかなければならないと考えており、既存の施策と密接な連携を図らなければ進まないという認識です。

○事務局

コーディネータという言葉は、この事業構想書の中で多数出てきておりますが、今の段階では、一般化した形で使わせていただいております。事業の調整やネットワークの繋ぎ手などという位置づけで、要するに事業の進行管理について、コーディネータという名称を使っています。実際事業を進めていくうえでは、専門的な知見を持っていただく必要もあろうかと思います。このプロジェクトの取組は継続的なところも見据えて我々考えていますので、コーディネータの位置づけは、この3年間のプロジェクトを通じて考えていきたいと思っています。

○会長

今後、次世代産業分野が拡大していけば、雇用も広がりコーディネータが大きな役割を担い必要性が高まっていく中で、おそらく戦略的な展開を考えられる企業にあっては、そういうものが生まれてくるだろうと推測しています。

○D委員

2点、今後考えていただきたいことがあります。

1点目は、それぞれの部署が、それぞれの担当で責任を果たして進めていくということですが、それぞれの部署がどういう関係にあるのでしょうか。

2点目は、次世代産業分野を育てるに関して、次世代産業を支える基盤であるものづくりと科学技術基盤は、高度技術関連、環境・次世代エネルギー、先端医療の基盤技術として位置づけられているのか。それとも別の分野の基盤技術なのか。また、従来兵庫県が持っている、例えば酒造産業的なものがどこにも入っていない。そういうものも含めて、関連的に将来的に次世代産業を育てる。従来全く振興のない分野だけを育てるのではなく、ものづくりの基盤技術やバイオテクノロジーの分野を入れた先端医療など、現在の基盤技術があるところはそれを生かし、新しいところは基盤技術を取り入れて、ヒュージョンというか融合させた形で先端医療や環境・次世代エネルギー等の分野の基盤技術になればいいと思う。

要点は2点、それぞれの関連がどうなっているのかというのを今後検討していただければと思うことと、新しい分野を育てるという点であって、旧来からの伝統的な技術をうまく生かしていければと思います。

○会長

このプロジェクトの構成の中では、高度技術関連、環境・次世代エネルギー、先端医療の分野を進めるうえで、ものづくり基盤技術と科学技術基盤を活用していかざるを得ないし、この中にこそ、優れた技術や次世代産業への参入を目指す中小企業が入ってくると思います。次世代産業分野の振興により、それに関わる分野に裾野が広がっていくイメージを持っています。基盤技術は、3つの次世代産業分野に繋がるものになりますので、酒造などがこの枠の中にどう関わられるかという議論があります。ある程度ターゲットを絞らなければ分散してしまうというところもありますので、何らかの形でこの領域の中に関われるというのがどんどん出てきてくれればと思っています。

○事務局

資料3には29の事業が並んでいます。これはそれぞれ事業主体があり、それぞれで推進していただくという中で、何も手を加えなければ確かにばらばらになる危険性があります。そのためにも私ども事務局がありまして、個々の事業を繋いでいき、1から29の事業でいろいろな関係性が生まれ、その中でシナジーが出てくるといったことを、この3年間でやっていこうと思っています。必ずしも全てが繋がるわけではないかもしれませんが、その点については十分配慮し、コーディネータを配置しているところです。また、既存産業と新産業の融合につきましては、例えば県では異業種交流のプロジェクトやCOEプロジェクトということで、産学官の連携の仕組み等を持っています。私どもが持っている施策を総動員して、このプロジェクトと連携を図りながら、推進していきたいと思っています。

○E委員

今、産学官という話がありましたが、私も産学連携の責任者として、もとより地域の中小企業・中堅企業の技術力がアップし元気にならないと、日本経済も元気にならないということでやってきています。

私どもの大学は、SPRING-8やニュースバルがある播磨科学公園都市にキャンパスがあり、ポートアイランドのスパコンの横にもキャンパスがあります。そういう最先端の研究基盤をうまく使い、産業界の技術力をアップしていくということで、私どもの大学がこのプロジェクトに参画することで、既にあるものがうまくマッチングしたということです。例えば、放射光・スパコン相互利用は、融合技術が重要ということで、約2年前から機構の中で、放射光と計算科学の研究会をやっていたわけです。それをうまくこの中に組み込んでいただいたということです。他にも産学連携でいろいろやっており、例えば人材育成という視点では、中小企業の技術者を単なるセミナーではなく、大学で演習付きのセミナーを行う。そうするとただ聞くだけではないので、企業の方も本気になって人材を育成しようとなります。このような取組もこのプロジェクトのどこかに入ってくると思います。

このプロジェクトでは、事業実施主体という形で、いろいろ分けているが、根底には産学連携の意味合いがあると思います。今までやっているようなことを、プロジェクトに組み込んでいくことをもう少し考えればよいと思いま

すし、また、どういうことをやっていくかということも、もう少し調査されたらどうかと思います。

○会長

それぞれの事業を進めていく中で、産学連携の必要性が出てくると思います。この資料には書ききれていませんが、既存の施策をこの中に取り込んでいくことは大前提だと思っています。このプロジェクトだけ切り離して進めることはできないと思います。資料では、科学技術基盤のところだけに県立大学の記載がありますが、ものづくり基盤技術の推進やそれぞれの分野においても、当然大学の知見を得なければならないということが、起こってくると思います。事業実施主体として名前がない事業においては、関連性は当然のこととご理解いただき、ネットワークを構築し進めていきたいと思っています。B委員のご指摘にもありましたが、既存の仕組みをうまく取り入れ連携することで、この事業が意味のあるものになると思います。

○F委員

確認ですが、先端医療介護福祉関係として、高齢化を迎えてこれから成長していくということで、それに合わせた形で、介護福祉機械というのがあると思います。先ほどからの説明は、ものづくりという部分からですが、ものづくり、機械を使う観点からの雇用は、プロジェクトの目標に入ってくるのでしょうか。

○事務局

国の事業の大前提で、製造業に限るとされています。使う人というジャンルは雇用創出の対象になりません。

○会長

製造業において、使う側の意見を聞くこと、ソフト面での意見をうまくハードに結び付けるということは必要になってくると思います。雇用としてはカウントできませんが、そのことによって雇用が生まれること自体は我々としては喜ばしいことですので、そのようにご理解いただきたいと思っています。

○G委員

雇用創出の目標値について、各事業の割り振りや積算根拠はどのようになっているのでしょうか。

○事務局

昨年度、皆様にご相談をさせていく中で、お願いもさせていただきながら積算したものです。内訳は、机上にあります事業構想の冊子をご覧ください。
(冊子に基づき雇用創出目標値の内訳等を説明)

○会長

雇用創出の目標値の根拠・見通しは地に足が着いたものになっていると考えています。事業を進めていく中で計画どおりいかない事が出てくるかもしれません。しかし、目標値をある程度達成していかなければ、プロジェクトの継続性が疑われることとなります。雇用数はきっちり確認しながら、プロジェクトを進めていかなければならないと思っています。

○H委員

最終目標は雇用創出というところが、我々としては気になるところです。次世代産業分野を強化して、それをどのように雇用につなげていくのかというところです。まだスタートしたばかりで何とも言いようがないというのが労働側の立場です。次にこれのポストも含めて考えられているならば、できなかった雇用のところをしっかりと追いかけて進めていただきたいと思います。

○I 委員

FOCUSスパコンという産業用スパコンの運用をしており、今多くの企業の方に使っていただいています。どうしてもスパコンというと、大企業が中心で、それから残念ながら、県内企業の利用がそれほど多くない状況です。このたび、このような協議会ができたということで、県内に優れた科学基盤があり、企業も実は簡単に安く使えることを、今日お集まりの皆様から、いろいろな企業に、ぜひ広がってほしいと思います。

そういう意味で思いつきですが、次回の協議会は、ポートアイランドに来ていただければ、先端医療やシミュレーションの関係など、見学もしていただけたと思います。ぜひこういうプロジェクトを契機として、県内に優れた科学技術基盤があることを知っていただき、利用する機会になればと思います。

○会長

本県には、世界に誇る高度な科学技術基盤がありますが、中小企業の多くのみなさんに、活用されていないという状況です。そういうところをもっと繋いでいく努力が必要ではないかと、まさにご指摘のとおりだと思います。我々も産業利用を進めようと、特に本県の企業のみなさんに活用してもらえるように、いろいろ考えていますが、なかなかうまくいっていません。工業技術センターには、中小企業のみなさんも割とご相談に来られますので、スパコンへ繋ぐなど、十分にコーディネートができていないというところもあるかもしれません。本県の課題かと思しますので、連携を図りながらやっていきたいと思っています。

○E 委員

放射光もいろいろな会議で、放射光を使えばいい材料を作れることや、技術が上がるといった話をしますが、中小企業には敷居が高すぎて何のことか分からない、そんなものは使わないといった話がよく出ます。私どもの大学は、ニュースバル・中型放射光を持っており、姫路市や加古川市等が、地域の企業を6、7社集めて、ニュースバルで実地講習会をやりますと、やはりそのうちの1社ぐらいはリピーターが出てきます。そういう地道な取組をやっていかないと、中小企業は入りにくいというところがありますので、考えていく必要があるところです。

○会長

ニュースバルは、播磨の中小企業に活用されている実績を聞きますが、ナノテクを進めるうえにおいて、非常に重要な武器になります。その武器をもっと使っていくことが必要です。この次世代産業を支える基盤と次世代産業

分野がうまく密接な情報を持ち合わせていくことが必要です。お互いを知り合う関係を作ることは、非常に重要なことですので、それは何とか進めていきたいと思ひます。

○C委員

医療関係について、神戸市にお願いすることが分かりましたが、ロボットや再生医療等いろいろ出てきてますので、神戸大学や県立病院とも連携をされた方がいいかと思ひます。

○会長

今この資料では限定されていますが、各分野でいろいろなネットワークが構築されていると思ひますので、何とか巻き込むような形にしていきたいと思ひます。

○オブザーバー

確認ですが、次世代産業分野に絞り、この分野の目標値を達成することで、この領域に入らない雇用への波及効果があると考えているということでしょうか。年間で150数名の雇用というのは、アナウンス的には小振りな感じもするものですから、しっかりした数字だと思ひますが、156人雇用されることにより、もっと裾野のところまで波及効果があると受け取らせていただきましたが、そのあたりを確認させていただきたいと思ひます。

また、先ほどC委員から発言がありましたが、経済産業局もいろいろなセミナー等も開催していますので、ぜひお互いにご協力させていただきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

○事務局

雇用者数の件ですが、波及効果も当然考えています。ただし、目標値に対する雇用者数について、根拠となる雇用者名簿を出せる人数にすることや、7割を切れれば、来年度以降の事業を見直さなければいけない状況ですので、堅い人数をあげています。先ほどの話のように、機械を使う側の雇用など、当然裾野が広がっていくものと考えています。

○J委員

冒頭で産業労働部長からも話がありましたように、厚生労働省としてこの事業を採択したという部分がございます。兵庫県と兵庫労働局が連携しながら、3年間の目標としての雇用創出614人がなされるように進めてまいりたいと思ひます。委員の皆様方のご協力もよろしくお願ひします。

○会長

それでは、時間が参りましたので意見交換は終了させていただきます。本日のご意見等を踏まえ、皆様と連携を密にして、プロジェクトの推進に取り組んでいくこととし、事業構想及び平成27年度事業実施スケジュールについても、ご了解いただいたということで、進めて参りたいと思ひます。本当にお忙しい中、貴重なお時間をいただきましてありがとうございます。また事業の推進にあたりましては、お力添えをいただければならないと思ひますので、どうかよろしくお願ひします。本日はどうもありがとうございます。